

「17NSJに参加して」

浜松 30 団 VS 平林 佳晃

今年の8月、石川県珠洲市で開催された第17回日本ジャンボリーに参加した。今回のジャンボリーは、僕にとって初の参加となり、スカウトとして参加することができる最後の大会でもあった。

僕の隊は混成隊ではなく、現在所属する浜松30団だけでの一個隊で編成されていたため、お互い顔見知りの気心が知れたメンバーで、大会の7日間を過ごすことができたので気持ちの上では随分リラックスできた。

ジャンボリーに出発する前日、仲間と最高の思い出作りに期待する気持ちと、現地ではどんな野営生活が待ち受けているのかという不安が渦巻いていた。

片道8時間かけてのバス移動。珠洲市の会場に到着した時には、広大なテントサイトに驚き、所々すでにテントサイトが設営されている光景を目の当たりにした。すると、現地の蒸し暑さや、今までの不安が一気に吹き飛び、「早く生まれ！」と期待心一色になった。

猛暑の中でのコンテナからの荷下ろし、草が茂ったサイトでの設営、大変な作業だったが、一日が終わり、辺りにはたくさんのテントが立ち並び、気持ちが高鳴り続けた。

そして開会式。翌日からたくさんのプログラムが展開されたので、限られた時間の中でできる限り参加した。幸いにも、「海上自衛艦に乗船体験」のエキスカージョンプログラムにも参加することができた。残念ながら、高波のため乗船はできなかったが、代わりに防衛副大臣からの貴重なお話を聞くことができた。

今回僕が参加したジャンボリーゲーム日本一班旗立てゲームでは、VS部門5人班の部で見事日本一になることができた。このことはきっと一生の思い出となるだろう。ジャンボリーの舞台上上がり、奥島理事長から表彰状をいただき、会場全員のスカウトから弥栄でお祝いしてもらい、幸せ者だと思った。今回参加した仲間だから成し遂げることができたと思う。

たくさんの楽しい思い出もできたが、次への課題もできた。

今回7日間の野営生活をして、自分の野営技術を向上させて、長期野営をより快適に過ごせるための野外工作物を作成したり、アイデアを考えたり、おいしいごはんが炊けるようなかまどを作れるよう、がんばりたいと思った。

次回の大会は2022年東京が会場となった。次の大会にも絶対参加しようと思う。

4年後の僕はRSなので奉仕として参加することになるが。

最後に、今回17NSJに参加してお世話になったリーダー、大会スタッフの方々、送り出してくれた両親と家族に感謝します。